# 2　景観まちづくりプラン　ー基本編ー

## （1）景観まちづくりプランの性格と使い方

この景観まちづくりプランは、地区にふさわしい景観のあり方についてみなさんと共有し、景観を切り口とした具体的な取組みを実践していくためのものです。そしてこのまちで進めている様々なまちづくり活動と連動することで、その相乗効果により、さらに景観をより良くし、まちづくりを加速していくことを目指しています。

大きくは「景観まちづくりの目標とテーマ」､「景観まちづくりアクションプラン」とで構成されます。

**地区の位置**




**景観まちづくりプランの活用方法**

景観まちづくりプラン

| 景観まちづくりの目標とテーマ | 景観まちづくりアクションプラン |
|---|---|
| 景観まちづくりの基本として永く住民や商業者で共有していく | 検討時点の状況に即した実現可能なプランとし、随時追加・更新を図っていく |

普及啓発を図り、地元住民・商業者等で共有化
（行政を通じ、外部事業者にも）

建物・空地利用での配慮を促していく

まちとしての景観まちづくりの実践

**景観まちづくりプランの構成**

**景観まちづくりプラン - 基本編 -**

**◆目指すべきまちの姿**
今後、守り、再生し、活かしていきたいまちの魅力を、地区のみなさんで再確認し、共有するものです。

**◆景観まちづくりのテーマ**
本地区にふさわしいまちづくりのテーマを設定し、その実現に向けた方向性を明らかにするものです。

**◆景観まちづくりの進め方**
魅力的な地区景観形成を図っていく上で念頭におくべき将来的なまちの構造を示すものです。

**景観まちづくりプラン - アクション編 -**

**◆ひとりからでもできること**
**ー景観まちづくり作法ー**
聖天様や、個々の暮らし・商いの環境を守るために必要な最低限の気遣いを共有するものです。

**◆みんなで考え、みんなでまちづくり**
**ーデザインノートー**
まちをより良くするための実践的なアイデア、情報や事例をストックしていく、デザインの道具箱です。

## （2）景観まちづくりの目標とテーマ

### ◆目指すべきまちの姿

#### 聖天様を心の拠りどころに、聖天様を支えながら生きるまち

聖天様と、地元を中心とした庶民が支え合いながら作り上げてきたまち。
その伝統を受け継ぎ、そのようなまちにふさわしい風情とおもてなしの心を地区全体で大切にしていく。
そして、来訪者にもおもてなしの心をあらわすあいさつを交わしたり、心地良くやすらげる空間を共有していく。





#### 歴史や自然に育まれた、固有のまちの形や多様な地域資源

水辺に囲まれた一体感のある門前町、表の商店街と路地の住宅と庭や菜園など、歴史や自然に育まれた多様な地域資源を大切にし、ここにしかないまちの形を今後とも持ち続けていきたい。





#### おだやかで元気な暮らしと商いの環境

このまちに住み、商う。歴史的に職住一体であったまちとして、店と住まいの環境の共存を今後とも図っていく。
いわば、寂しすぎず、喧噪すぎない…おだやかに元気に暮らせる（商える）環境を維持していく。





## ◆景観まちづくりのテーマ

### テーマ１：歴史のあしあとを魅せる

・聖天山や歓喜院本坊、大我井神社をはじめ、小さな社や祠、碑、お地蔵様、蔵、町家、昔の写真などを大切にし、PR していく。
・登録文化財でもある坂田医院旧診療所や井田記念館は、地区の近代の建築遺産としてその価値を再認識し、まちづくりに活かしていく。

### テーマ２：歩行者と車の共存を工夫する

・車でのアクセスと駐車場・自転車置き場・レンタサイクルなど、来訪者の回遊起点となる場所を想定しながら地区内の歩行者ネットワーク（食べ歩きや散歩、歴史散策、通学や買い物）を設定し、地区住民も来訪者もまちなかを快適に楽しく歩ける空間づくりを進める。
・表通りは歩道整備を図りながら、歩道部と店先で快適な歩行者空間を形成していく。
・お休み処の設置や、より快適に利用しやすいトイレの環境づくりなど、歩行者の回遊の助けとなる取組みを検討する。
・聖天山境内地は、歩いて参拝する人たちのための特別な空間として、現在散見されるような車の無造作な進入を抑制していく。

### テーマ３：社寺、表通りと路地、お店と住宅…それぞれに合ったしつらえ

・聖域（聖天山や歓喜院本坊、大我井神社の連なり）、まちの表通り（羽生妻沼線や太田熊谷線）、路地…という、このまち独特のまちの形や、その形に合わせてつくられてきたまち並みの特長を大切にする。
・羽生妻沼線から太田熊谷線に至る商業を主体としたまち並みでは門前町風情やおもてなしの店先などのしつらえを、また、住宅を主体とした路地空間では生活環境に配慮しながら歩いて楽しい庭先のしつらえ等をテーマとして景観形成を図っていく。
・また、聖天山境内地についても国宝にふさわしい聖域であり続けるために、清掃活動など、協働で支える取組みを行っていく。

### テーマ４：花やみどり、水や灯りで“やさしいお庭”のようなまちに

・歩行者ネットワークルートについて、沿道を演出するため、花やみどり、水、灯りを積極的に取り入れる。
・個々の庭先や店先で通りの花やみどりをつなげていくことで、まち全体がやさしいお庭のような空間となっていくことを目指す。
・お休み処など、まち共有の場所では、協働作業による庭づくりにより、花とみどりの拠点となる空間づくりを進めていく。

### テーマ５：できることは自分で、つくれるものは手づくりで

・地区の気風として感じられる手づくりの心をさらに積極的に奨励・促進し、まちの個性としていく。
・そのような自立的なまちの取組みを通じ、「歴史の中継ランナー」として聖天様とともに歩むまちとして多くの人の心をひとつにしていく。

## ◆地区の将来像

本地区の歴史的な成り立ちや景観資源（お宝）、目指すべきまちの姿とテーマを踏まえ、本地区の将来像を次のとおりとする。

**1－歴史と観光交流の「拠点」を形成する**

**2－表通りを主要な「まち歩き軸」として形成する**

**3－路地や水辺を生かした「お散歩軸」を形成する**

妻沼聖天山、歓喜院本坊、大我井神社を歴史的拠点、坂田医院旧診療所を観光交流拠点とそれぞれ位置づけ、それらを訪れる人が周辺へと回遊するため、羽生妻沼線沿道と市道妻沼 1135 号線沿道を門前町の風情が残る歴史まち歩き軸、太田熊谷線を買い物・食べ歩き軸としてそれぞれ主要な歩行者軸として位置づける。

また、地区内の路地や水辺（芝川）を生かしたお散歩軸などと結びついて、まち全体の魅力に触れることができるような回遊ネットワーク形成を目指す。

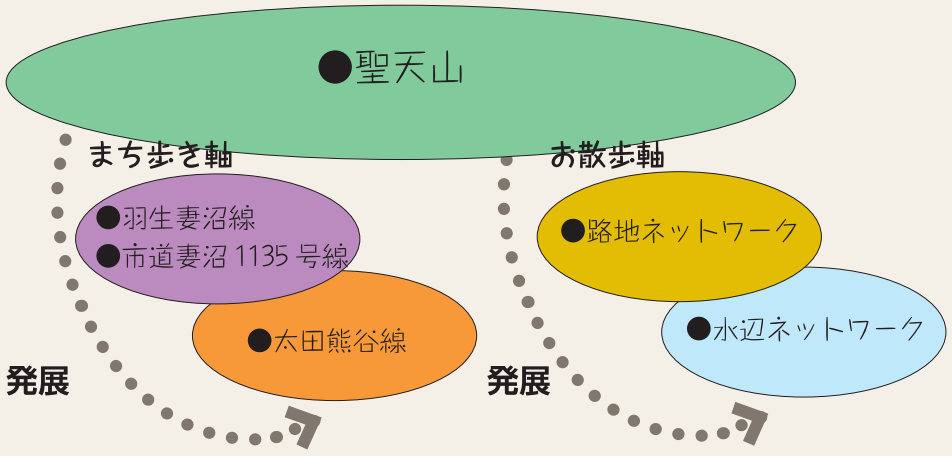
## ◆景観まちづくりの進め方

本地区のまちづくりの進め方について、ワークショップで多かった意見から、「まず、まちを元気に」「聖天様を中心として」「観光客への対応」といったキーワードが挙げられる。

そこで、妻沼聖天山、歓喜院本坊、そして分祀された大我井神社の拠点づくりを視覚的に魅せるため、羽生妻沼線の整備や沿道のまち並み形成と、妻沼聖天山と歓喜院本坊を結ぶ市道妻沼 1135 号線を一体的・優先的に整備を進める。

次に、太田熊谷線は、既に歩行者空間の整備が行われているが、凹凸があり歩きにくく、老朽化が進行していることから、観光交流拠点から聖天山を結ぶ回遊ルートとしての買い物・食べ歩き軸を形成し、まち全体の魅力に触れることができるような回遊ネットワーク形成を目指す。このような取組と並行して、お休み処づくり路地空間や水辺の活用により、回遊性の向上やネットワークの形成を図る。

**景観まちづくりの進め方のイメージ**




**●聖天山周辺の拠点づくりから始め、羽生妻沼線と市道妻沼1135号線を一体的に整備する**

**●その発展として、太田熊谷線の再整備を進める**

**●拠点やまち歩き軸を起点とし、景観資源（お宝）やお店などを有機的に結ぶため、路地空間や水辺空間の回遊性を向上させ、ネットワーク化を図る**

## ◆景観まちづくりの整備方針

### ●羽生妻沼線の整備方針

羽生妻沼線は、日常のみならず、イベント時や夜間の歩行者の安全性や快適性を確保するため、電柱を民有地へ移設する事業を実施し、歩行者空間や照明の再整備を進める。沿道は、聖天山の門前にふさわしく、その風情が感じられるまち並みの形成・再生を図る。歩道や電柱等は、これらまち並みと調和するものとし、歩道の仕上げは明るく、歩きやすい（滑りにくい）素材の採用、電柱や照明、サイン等は、落ち着きや風情のあるデザインや色彩とする。

また、道路照明は電柱や信号柱の共架式とし、歩行者の足元を照らすものとして、店先や住宅の玄関先にあたたかみのある小さな灯りを設けることで、夜間の歩行者の安全性を確保する。

なお、沿道にあるごみ置き場や自動販売機等も門前町の風情あるまち並みと調和したものとなるよう修景する。

### ●市道妻沼 1135 号線の整備方針

市道妻沼 1135 号線は、妻沼聖天山と歓喜院本坊という２つの歴史拠点を結ぶ歴史シンボル軸として、歩行者空間や並木の再整備を進める。歩道の仕上げや電柱や照明、サイン等は、羽生妻沼線との連続性も考慮し、落ち着きや風情のあるデザインや色彩とする。

また、路地空間のネットワークの起点であるとともに、歓喜院本坊の周辺に駐車場が整備されており観光客も多く利用する「おもてなし」の役割も担っていることから、並木の樹種の見直しや花壇の整備等を検討する。

### ●太田熊谷線の整備方針

妻沼聖天山と坂田医院旧診療所の２つの拠点を結ぶ軸として、歩行者の安全性や快適性の向上を図るため、歩道の切り下げや舗装等の再整備を進める。

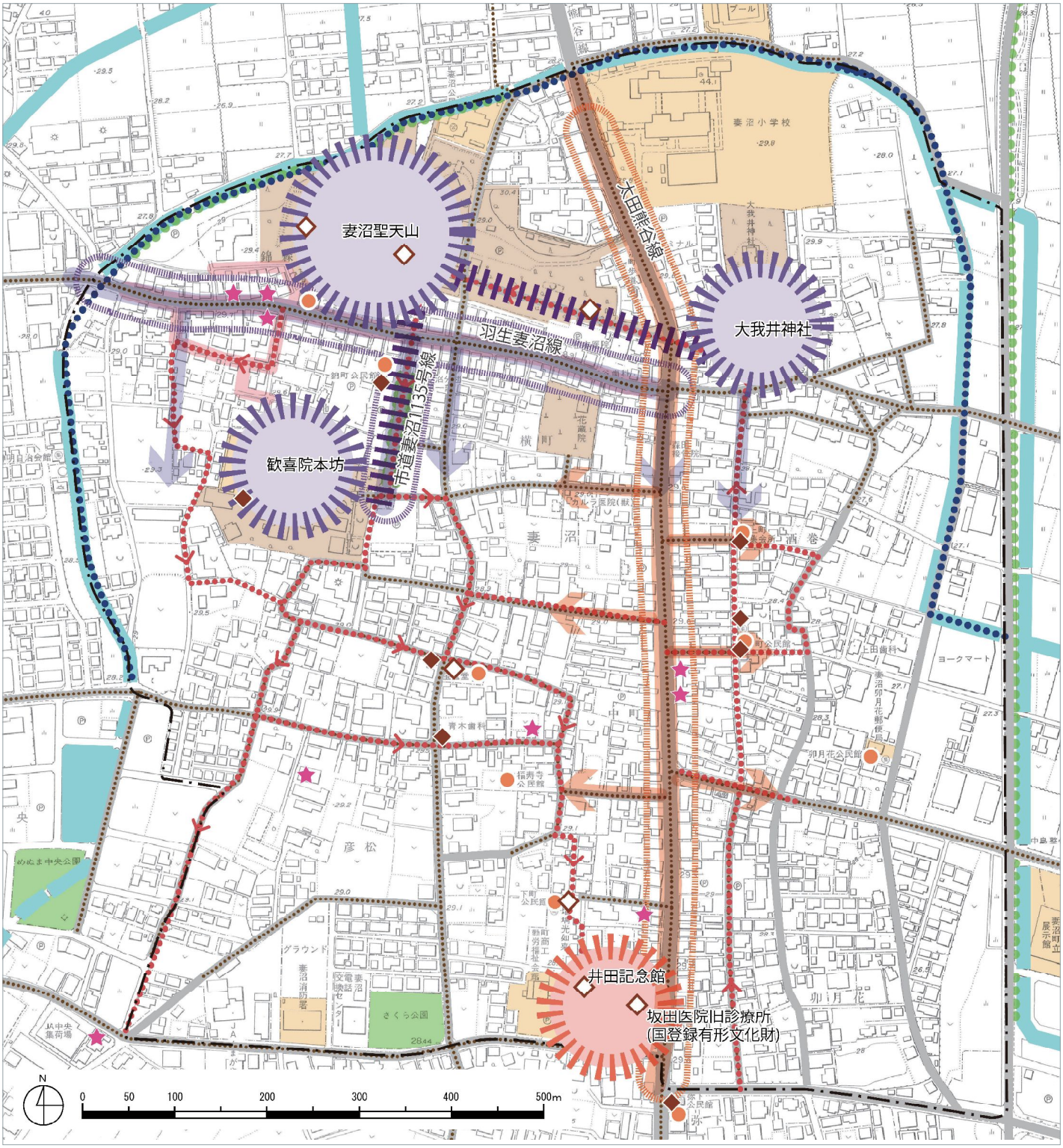
また、住民や観光客の買い物や食べ歩きができるよう、空き地や空き店舗の活用による商業の核づくりやにぎわいづくりに取組む。沿道のまち並みは、点在する歴史的な建造物の保存・活用を進めながら、落ち着きを感じつつも、ゆとりや親しみが感じられるまち並みの形成・再生を進める。歩道や電柱等は、これらまち並みと調和するものとし、歩道の仕上げは明るく、歩きやすい（滑りにくい）素材の採用、電柱や照明、サイン等は、にぎわいづくりを演出するデザインや色彩とする。

### ●路地や水辺を生かしたお散歩軸の整備方針

２つのまち歩き軸を補完し、地区の回遊性を高めるために、路地空間を楽しむため、庭先や店先を花やみどりでつなぐような整備を進める。

また、手づくり精神を活かし、まち歩きの助けとなるお休み処づくりや案内サインの整備を進める。

## 地区の将来像




凡　例

【拠点】

- 歴史拠点
- 歴史拠点を結ぶ参道
- 観光交流拠点

【まち歩き軸】

- 門前町の風情が薫る歴史まち歩き軸（羽生妻沼線・市道妻沼1135号線）
- 買い物・食べ歩き軸（太田熊谷線）

【お散歩軸】

- 路地のネットワーク
- 水辺のネットワーク

凡　例

- 公共施設
- 町会の集会所
- 公園・緑地
- 並木
- 水路・水辺
- 主要な道路
- 交通量の多い路線
- 対象区域
- 社寺
- 歴史的な資源（建造物など）
- 歴史的な資源（地蔵尊、碑、祠）
- 近代初期以前にあったとされる道筋
- 雰囲気の良い路地を巡るルート
- 地区内外の社寺を巡るルート
- しだれ桜を植樹した場所
- イベントの開催
- その他の資源（ワークショップで意見のあったまち歩きの楽しみとなる店舗）

※近代初期以前の道筋の復元は、荒井家文書を参考とした
※資源や雰囲気の良い路地は、平成25年度に聖天山周辺地区にお住まいの方と意見交換を行い、意見の挙げられたものを中心に記載